“ゆとり君”と働くために覚悟しておくこと（第8回）

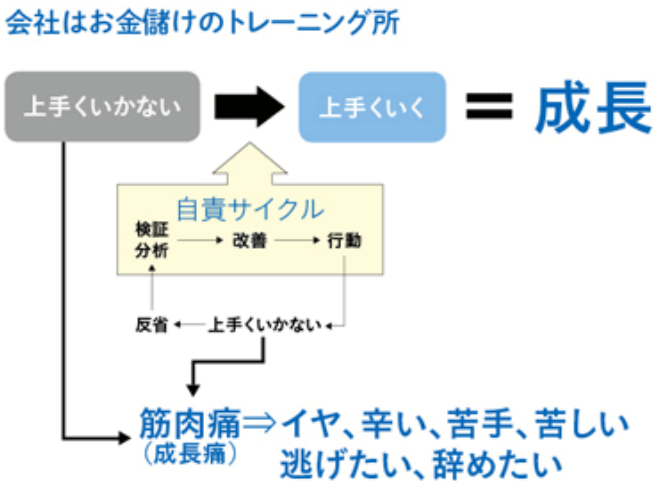
会社は「つらい訓練所」だと教える

2015.12.10

温室のような環境の中で育ったゆとり世代は、さまざまな経験に欠けています。例えば、会社の上司や先輩など、年代の異なる人たちとの会話自体でさえ、彼らに未知の体験であり、ストレスになります。ビジネスの基本であるお金もうけにつながる交渉事などは、はるかに高い山のように見えていることでしょう。

社会人となり、初めて取り組んだ仕事はうまくいかないことのほうが多く、うまくいくのはわずかです。ゆとり教育でほとんどのことがうまくいった（あるいは、うまくいったと思いこまされた）世代ですから、挫折をあまり経験していません。ビジネス社会に出て、ちょっとうまくいかないとすぐに傷ついてしまうわけです。

私は自分が20代前半に経験したことを通じ、「それは自分が一人前のビジネスマンになるためのトレーニングであり、うまくいかずにつらい気持ち、苦しい気持ちになるのはトレーニングにおける筋肉痛と同じなんだ」と気づきました。つらく、苦しいトレーニングを続けていけば、そのうちに必要なところにいろいろな筋肉が付いて、次第に筋肉痛は起きないようになります。



それと同じで、ゆとり世代には「仕事でつらい思いをするのは、上手に仕事ができるようになるためのトレーニング中だからなんだ」という意識を持たせなければなりません。でないと、「失敗した↓ダメだ↓できない」とやる気を失ってしまいます。

ちょっと態度が横柄な上司がいたとしましょう。話しかけると「おう」「なんだ？」といった言葉遣いをする上司です。ゆとり世代は、そういう上司に話しかけるだけでストレスになるのです。さまざまな企業で新入社員研修をしていると、「上司が怖い」という声を本当に多く聞きます。

しかし、よくよく話を聞いてみると、上司の態度が横柄だったり、言葉遣いがぞんざいだったりというだけで、特段、怒られたり、叱られたりしているわけではありません。そういう人とこれまでの人生で接したことがないため、接するだけで「怖い」と感じているのです。

痛みを乗り越えてこそ、ご飯が食べられる… 続きを読む